平成２８年度卒業研究発表会（日本大学工学部情報工学科）

**川への考え方、接し方からの今後の川づくり**

The idea of the river, the future of the river works from the way we treat

276156 　根本 貴大

1. **はじめに**

第１回小豆川、入道川領域懇談会では、委員の方々の川への考え方や川との接し方について聞くことができた他、今後の川づくりに対して様々な角度から貴重な意見を得ることができた。この意見交流会から川への考え方、接し方からの今後の川づくりの不満、問題点などを知ることができた。

1. **第１回意見交流会の概要**

市民会館にて老若男女幅広い市民を招集し、今後の小豆側、入道側流域に関する意見を募集する意見交流会を開催した。

1. **意見集約の方法**

意見集約の方法は、第1回小豆川、入道側流域懇談会の中で述べられた意見をまとめた。また意見交流会の中では得られなった意見もあると思い投書箱を設置した。投書箱の設置場所は多くの市民の目につくようにと、市民会館の前に設置し一般市民からの投書も広く受け付けた。これによって意見交流会では得ることのできなかった幅広い層からの市民からの意見を得られることができた。

1. **意見の分類**

第１回意見交流会の意見の概要を整理すると、以下に示す４項目に集約される。

1. 治水計画

② 川のコンセプト

1. 河川工事
2. 教育

以下に、項目ごとの意見の概要を示す。これらの意見を今後の検討に反映したいと思う。

1. 治水計画に関する意見

・治水の案を複数出し、その中から絞り込んでいくような検討の方法を希望する。

・上流部に遊水地を造るより、大雨を小豆川に流す

方法が一番経費も安くて現実的。

1. 川のコンセプトに関する意見

・市民がウオークラリーなどができるような共存で

きる川であればいいと思う。

・石を部分的に置けばそこに虫が集まって来る。虫

のいる所には魚も来るので、そのような配慮をし

ていただきたい。

・川の中に大きな石を入れ、瀬をつくると空気中の

酸素が入り、水がきれいになり、その石にまた生

き物が来る。この関係の専門家の知恵も活用すべ

きだ。

・昔は川で泳いだり、釣りをした。これからの子供

たちにもそういう場である川づくりを。

1. 河川工事に関する意見

・地域や時期を考えて工事を行い、工事による影響

を最小限にして欲しい。

・現在あるものを保全しながら行うことが望まし

い。

1. 教育に関する意見

・学校の総合学習の時間に自然環境については多

く取り上げられているが、治水やその歴史もついても教育が必要だと思う

意見の分類基準は, まず川の治水に関する意見をまとめた。主に川の水を貴重な資源として有効活用するような意見をまとめた。また、大雨や台風などの大災害で川が氾濫する場合の危険性を考え安全面での意見もこちらにまとめた。そして2番目に川のコンセプトに関する意見をまとめた。これは、川を地域に密着させレジャーなどの場所に使えるようなコンセプトをまとめた。人々が川と生き、川と生活し川と共存できるような意見もこちらにまとめた。次に河川工事に関する意見をまとめた。この分類は主に河川工事による環境問題や、昔からの川への考えをまとめた。最後に教育に関する意見をまとめた。これは、川に対する過去の伝統や習慣、風習などを次世代の子供たちへの残そうといった意見をまとめた。

4つに分類した意見をまとめた結果は下の表１は意見集約の分類にある。

表１．意見集約の分類

|  |  |
| --- | --- |
| 意見集約 | 意見 |
| 治水 | ・治水の案を複数出し、その中から絞り込んでいくような検討の方法を希望する。  ・上流部に遊水地を造るより、大雨を小豆川に流す |
| 川のコンセプト | ・市民がウオークラリーなどができるような共存できる川であればいいと思う。  ・石を部分的に置けばそこに虫が集まって来る。虫のいる所には魚も来るので、そのような配慮をしていただきたい。  ・川の中に大きな石を入れ、瀬をつくると空気中の酸素が入り、水がきれいになり、その石にまた生き物が来る。この関係の専門家の知恵も活用すべきだ。  ・昔は川で泳いだり、釣りをした。これからの子供たちにもそういう場である川づくりを。 |
| 河川工事 | ・地域や時期を考えて工事を行い、工事による影響を最小限にして欲しい。  ・現在あるものを保全しながら行うことが望ましい。 |
| 教育 | ・学校の総合学習の時間に自然環境については多く取り上げられているが、治水やその歴史もついても教育が必要だと思う。 |

また、各分類の意見の数を図２．意見集約の数にまとめる。

図２．意見集約の数

　上のグラフから②の川のコンセプトに関する意見が多いことが分かる。

各意見の割合は下の図３.意見の割合に記載してある。

図３.意見の割合

　割合に関しても②の川に関するコンセプトが半分近くの割合を占めている。

**５．まとめ**

　①の治水に関する意見は市民がこの川のことについてしっかりと考えていることが分かった。昔からこの町の川は氾濫などの災害が起きやすく遊水地の場所などについてずっと揉めてきた。しかし、この意見区流会を経て治水に関する問題が前進できたと考える。②の川のコンセプトに関する意見が最も多く市民が川へ安らぎや、遊びを求めていることがわかった。この町は、自然が多く残されていることが特徴である。しかしその反面この町には遊ぶ場所が少ないなどの問題もある。なので自然を利用したレジャー施設として有効に活用していけば町おこしとしても非常に良い仕事をするだろう。③の河川工事に関する意見は、河川工事の時期など考えて行ってほしいなどの意見や、現状に不満がないないため無理に変えなくてもよいといった保守派の意見があった。基本的に河川工事に対しては消極的な意見が多かった。このことから市民は環境問題などの理由もあって河川工事を望んではいないということがわかった。しかし、河川工事は河川を維持するためには行わなくてならないことなので、意見を尊重しつつ慎重に行いたいと思う。一方で一番意見の少なかった④の教育だがこの意見も大切な意見なのでないがしろにしてはいけないと考える。この町には、川を利用した昔からの伝統の灯篭流しなどの文化が残っている。しかし、今ではその伝統を受け継ぎ実行する市民は少ない。なので教育の観点から次世代の子供たちにこの町の川の歴史を伝えていくことで川の歴史に興味を持ってもらい伝統の再建ができればいいと思う。②川のコンセプトに関する意見が最も多くかったので②の意見を積極的に解決できるような活動を行っていき、ほかの意見も尊重するような活動を行っていきたい。